

The background of the entire page is a dark blue gradient. In the center, there is a faint, light blue map of Japan. Below the map, there is a large, stylized illustration of a wave, reminiscent of the Great Wave off Kanagawa, rendered in various shades of blue. The text is overlaid on this background.

第28期

ISFJ政策フォーラム

Inter - university Seminar for the Future of Japan
2023

ISFJ日本政策学生会議

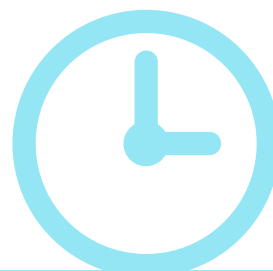
Index

目次

タイムスケジュール	・ ・ ・ p. 2
代表挨拶	・ ・ ・ p. 3
理念・沿革	・ ・ ・ p. 4
論文の評価について	・ ・ ・ p. 5～p. 6
分科会別・参加論文一覧	・ ・ ・ p. 7～p.16
コメンテーター・論文審査員一覧	・ ・ ・ p.17～21
ISFJ参加募集	・ ・ ・ p.22
第28期 運営委員一覧	・ ・ ・ p.23
後援団体・協賛企業	・ ・ ・ p.26～27

Time Schedule

タイムスケジュール



Day.2 12/17

会場：明治大学 駿河台キャンパス アカデミーホール

9:40~10:00 参加者受付

10:30~10:40 開会式

10:40~10:55 協賛紹介

10:55~11:10 発表班紹介・発表準備

11:10~11:55 上位論文研究班①発表・質疑応答・講評

11:55~12:40 上位論文研究班②発表・質疑応答・講評

12:40~13:00 参加者の皆様へのご講演

13:00~14:00 休憩

14:00~15:00 各種受賞班発表・表彰式

15:00~ 総評・閉会式

Message

代表挨拶



雲外蒼天

コロナウイルスの影響により、私たちの生活や社会の在り様はここ数年で大きく変化してきました。落ち着きを取り戻しつつある今日であっても、私たちは変わりゆく生活様式の中で新たなバランスを見つけていく必要があります。また、今まで常識とされてきた価値観や、長年にわたって受け継がれてきた社会のルールが大きく揺らぎつつあります。しかし、こんな時代だからこそ、私たちは新たな視点や考え方をもち、新しい社会を創造することが求められているのではないのでしょうか。

ISFJは、新しい社会の創造に向けて、様々な分野で未来の日本をより良いものとする事が出来る政策を提言し、新時代を担う者として社会に影響を与える事が出来る団体を目指しています。そのために、産官学それぞれの領域から学生の政策提言に対してアドバイスをいただき、勉強会や中間カンファレンス、中間発表会などで専門家の方との議論を重ね、じっくりとブラッシュアップして政策フォーラムにて発信いたします。

今年でISFJの活動は28年になります。こうしてこの団体を長く続けることができたのも、参加研究会の皆様や、各大学の先生方、ご指導いただいたシンクタンクの皆様、並びに協賛してくださっている企業の皆様のおかげであります。ご支援いただきます多くの方々にISFJを代表して感謝いたします。私たちの活動が少しでも社会に影響を与えられるよう精進してまいります。

ISFJ日本政策学生会議第28期東日本代表
明治大学 政治経済学部3年
二渡結彩

ISFJ日本政策学生会議第28期西日本代表
関西学院大学 総合政策学部3年
又賀脩登

Concept 理念・沿革

「学生の政策提言による望ましい社会の実現」を目指して

ISFJ日本政策学生会議では、日本の未来を考える志高い学生たちの政策立案の支援と、政策の実現に向けた発表の機会を提供しています。

一般に政策とは、政治家や官僚といった国や自治体組織の担当者により慎重に考えられ、立案・提言されるものです。しかし、政策とは社会全体のためにあるのであり、政策担当者による一元的な立案・実現だけは望ましい社会の実現をすることはできないと私たちは考えます。

その点において、学生による政策提言を積極的に行うことには大きな意味があると考えています。それを支援することが、ISFJ日本政策学生会議の役目です。

- 1994年 慶應義塾大学「竹中平蔵研究会」中室牧子氏の提案により、ISFJの
原型「21世紀の日本を考える会」結成
＜5大学／7研究会＞
- 2002年 組織名を「ISFJ日本政策学生会議」に変更
＜16大学／37研究会＞
- 2003年 初の関西シンポジウム開催
＜20大学／41研究会＞
- 2004年 論文掲載本の出版
＜19大学／52研究会＞
- 2007年 論文掲載本の出版(学生からの政策提言2007)
＜26大学／66研究会＞
- 2009年 政策提言会を開催
＜26大学／57研究会＞
- 2011年 広報部設立・政策合宿を実施
経済産業省・農林水産省の方々に直に提言を行う
＜25大学／69研究会＞
- 2013年 政策フォーラム、政策提言ツアーの実施
フォーラムでは年々論文のレベルが上がっているとの評価をいただき、高評価を受けた政策を観光庁へ提言
- 2015年 20周年を迎える
＜25大学／54研究会＞

Evaluation

最優秀賞・優秀賞・奨励賞の審査方法の紹介

■ 審査の過程



【一次審査】全ての論文を審査

また、各分科会から点数評価の最も高い論文を選
定全体から点数評価の高い論文を数本選定

【二次審査】一次審査で選定された論文を審査し、上位10本の論文を選出

【特別論文審査会議】二次審査で選出された論文から、優れた論文5本を選出

また、選出した5本の論文から
最優秀賞(1本)、優秀賞(1本)、奨励賞(3本)を決定

■ 2023 年度 論文評価システム

(最優秀賞、優秀賞、奨励賞：下記項目の論文審査のみで評価)
分科会賞：下記項目で60点分を評価

A)論文全体を通して、論旨が一貫し、読者に
わかりやすい説明がなされているか。

B)学術論文としての形式が整っているか。

C)現状分析を通して、何が問題なのかを
明らかにしているか。

D)先行研究のレビューに基づいて、論文の
位置づけ、独自性が述べられているか。

E)現状分析と先行研究のレビューに基づいて
分析の枠組み、検証すべき仮説等が適切に
設定されているか。

F)分析に使用するデータ、推定方法が適切に
選択されているか。

G)分析結果が適切に解釈されているか。

H)政策提言が分析に基づいて行われている
か。

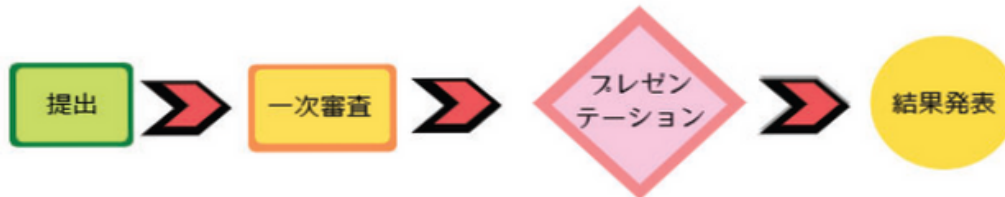
I)政策の効果が定性的、定量的に示されてい
るか。

J)政策の限界や実施に当たっての問題点等が
議論されているか。

Evaluation

分科会賞の審査方法の紹介

■ 審査の過程



【一次審査】全ての論文を審査、60点満点で採点

【プレゼンテーション】政策フォーラム1日目のプレゼンテーションを40点満点で採点。
一次審査の採点結果とプレゼンを受けての採点結果から
分科会賞を選出

■ 2023 年度プレゼンテーション評価項目

（ 最優秀賞、優秀賞、奨励賞：論文審査のみで評価
分科会賞：下記項目で40点満点で評価 ）

①発表内容についての審査

- 1)現状分析を通して何が問題なのかを明らかにしているか。
また、先行研究のレビューに基づいて、論文の位置づけ・独自性が述べられているか。
- 2)現状分析と先行研究のレビューに基づいて、分析の枠組み、検証すべき仮説等が適切に設定されているか。
- 3)分析に使用するデータ、推定方法が適切に選択され、分析結果について適切に解釈されているか。
- 4)政策提言が分析に基づいて行われているか。
- 5)政策の効果が定性的、定量的に示されているか。また、政策の限界や実施に当たっての問題点等が議論されているか。

②発表スキル・スタイルについての審査

- 1)発表スキルとして、聞き手に伝わる発表ができているか。また、質問に対する対応が適切かどうか。
- 2)発表スタイルとして、資料内容が上手く表現されているか。また、誤字脱字がなく、正確に表記されているか。

Paper List

分科会別・参加論文一覧

総数

30分科会

30大学

48研究会

124班



Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学 研究会 代表者 タイトル

医療

関西学院大学	栗田匡相	大山慎太郎	短期間の母親の知識の改善によって、健康に関する知識や意識の変化が見られたのか？
熊本県立大学	本田圭市郎	赤田枝利佳	医師不足
上智大学	釜賀浩平	城川和真	公平な子どもの受診機会に向けた医療アクセシビリティの格差是正
創価大学	金澤伸幸	藤井香奈恵	HPVワクチンの接種率上昇にむけて
慶應義塾大学	田邊勝巳	小原滉平	介護人材不足に対する施策とその全国展開に関する提言

環境・エネルギー①

関西学院大学	西立野修平	茶屋武	水素社会実現に向けた水素ステーションと燃料電池自動車の普及戦略
金沢大学	塩谷雅弘・藤澤美恵子	小林優真	グリーンマークが及ぼす住宅価格への影響
早稲田大学	須賀晃一	村上陸人	コミュニティソーラーの日本における導入拡大
名古屋市立大学	板倉健	秋田優作	大規模水素需給創出に向けた政策提言
明治大学	畑農鋭矢	大平愛奈	なぜ電気自動車は普及しないのか？ ～静岡県の市町データによる要因分析～

環境・エネルギー②

神戸大学	松林洋一	連友香	食品ロス削減に向けた外食産業へのアプローチ
創価大学	蝶名林俊	Kang Jianrui	未定(日本における食品ロス課題の解決について)
同志社大学	迫田さやか	本久鈴菜	大学生協における食品ロス削減
南山大学	鶴見哲也	鈴木みらの	大量消費思考からの脱却と長期保有へのプロセス
明海大学	高橋義明	関口隆行	ブラックバスの活用方法

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

環境・エネルギー③

同志社大学	荒渡良	上西優斗	家庭ごみ排出量削減に向けた政策提言
同志社大学	迫田さやか	植月聖貴	大学における給水スポット普及によるペットボトル生産量削減に向けて
南山大学	鶴見哲也	廣田亜衣	花粉症に対する政策
明治大学	千田亮吉	吉田理乃	マイクロプラスチック削減
明治大学	畑農鋭矢	浅窪拓海	プラスチックリサイクル率の上昇に関する政策検討

観光①

兵庫県立大学	石黒靖子	岡琳太郎	訪日外国人旅行者数の増加を目指して～グラビティ・モデル分析による日本経済の現状把握と改善策の構築～
名古屋市立大学	平賀一希	後藤汰一	持続可能な観光政策の地域活性化について
長崎大学	鈴木崇文	小松賢太	長崎の観光について
千葉大学	後藤剛志	伴雅人	日本における宿泊税の導入効果

観光②

山口大学	加藤真也	村田照真	温泉観光地の「稼ぐ力」の分析
慶應義塾大学	田邊勝巳	小川和華	二次交通が与える観光市場への影響
慶應義塾大学	松浦寿幸	白方太智	アートツーリズムが地域経済全体にもたらす効果について
明治大学	山田知明	加藤真帆	訪日外国人の都市部一極集中の緩和を目指して

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

教育①

東京学芸大学	腰越滋	山口満理奈	教員不足について
日本大学	宮里尚三	君嶋花音	公立中学校教員の労働改善からみる経済の 人的資本の充実
明海大学	高橋義明	小島隼人	chatGPTを教育でどう活用するか
明治学院大学	西村万里子	長谷川諒	教員の過重労働改善に向けた政策提言
明治大学	加藤久和	糸坪遥玖	全国学力・学習状況調査からみた ICTと教育の関係

教育②

関西学院大学	栗田匡相	稲積駿	マダガスカル農村で行った短期的な教育介入の 長期的影響
中京大学	深堀遼太郎	柴原直紀	公立高校の入試制度の問題点についての 実証分析
同志社大学	三好博昭	寺島幸希	文系のDX人材育成シナリオ
明治大学	加藤久和	藤田健介	日本の将来を担う外国人児童の教育の在り方
明治大学	千田亮吉	松井直樹	外国人留学生の拡大と我が国の 就業促進に向けて

教育③

青山学院大学	安井健悟	渡辺太陽	ICT端末の持ち帰りが学力に与える影響
千葉大学	後藤剛志	島田凌	公立中学校教員の負担軽減に向けた 新たな部活動運営の検討
同志社大学	三好博昭	金田祐紀	日本人のチャレンジ精神を高めるための 政策提言：世代間連鎖からの脱却
日本大学	宮里尚三	宮原杏奈	身体的ハンディキャップと高等教育機関への 進学における関係性
獨協大学	山森哲雄	倪楓萃	入学試験における女子枠の導入について

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
金融・財政①			
名古屋市立大学	平賀一希	塩見勇晴	金融仲介機能のベンチマークによるリレーションシップ貸出への再評価と改善策について
日本大学	鶴田大輔	塚田琉心	中小企業への非効率的な資金配分をどのように改善するのか？ 過去の3つのショックの経験を踏まえたポストコロナへの政策提言
慶應義塾大学	土居丈朗	小野翔大	ESG債の評価基準制定と情報開示政策
金融・財政②			
日本大学	鶴田大輔	寺原彰弘	金利上昇とゾンビ企業の関係に注目した、市場の健全化
新潟大学	小川顕正	吉川さくら	地方自治体における中位年齢と若年層向け支出の関係についての実証分析 ー持続可能な財政基盤を目指してー
明治大学	畑農鋭矢	小俣知穂	市町村におけるふるさと納税の返礼割合の決定要因分析
経済産業①			
慶應義塾大学	田邊勝巳	上原桐子	トラックドライバーの労働時間規制が農水産品物流に与える影響
大阪経済大学	岡島成治	中山慶人	自動車産業
法政大学	小黒一正	峰岸好誠	EVが与える日本経済への影響
明治大学	千田亮吉	三宅川幹翔	交通空白地域におけるライドシェア導入の可能性

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

経済産業②

金沢大学	塩谷雅弘・ 藤澤美恵子	野村哲司	日本の産業空洞化
創価大学	蝶名林俊	橋本大雅	日本経済成長を促進させる政策提言
同志社大学	荒渡良	高畑壮吾	京都の空き家問題解決に向けた政策提言
同志社大学	迫田さやか	大関凜花	ゾンビ企業と宿泊業
日本大学	豊福建太	泉原駿	大学発ベンチャーによる地方創生

国際①

関西学院大学	栗田匡相	楊井健太郎	マダガスカルの農村の脆弱性の推移
慶應義塾大学	松浦寿幸	山村菜々穂	MICE観光誘致の戦略
東北学院大学	倉田洋	大友心愛	技能実習制度を活用した日本の経済成長率向上への政策提言
創価大学	蝶名林俊	石中雄太	ナイジェリアの環境問題について

国際②

慶應義塾大学	松浦寿幸	鈴木奏葉	食料における日本ブランドの向上について
兵庫県立大学	石黒靖子	加藤雪菜	フェアトレード貿易と神戸港の活性化に関する施策
関西学院大学	西立野修平	芳本協佳	総理・閣僚らの海外訪問によるトップセールスは日本のインフラ輸出を増加させるのか？
南山大学	寶多康弘	石川なつみ	日本の農水産物輸出

社会保障①

慶應義塾大学	土居丈朗	河野智貴	子供の体験・機会格差是正に関する提言
明治学院大学	西村万里子	城龍之介	こどもの居場所づくりのためのこども食堂の普及
大阪大学	赤井伸郎	福田虎太郎	子どもの学習機会均等を目指して

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

社会保障②

慶應義塾大学	田邊勝巳	大高悠生	制度の違いが保育サービスの質と効率性に及ぼす影響分析
早稲田大学	須賀晃一	菅谷文俊	人的資本投資による社会保障維持
日本大学	立服家徳	鈴木晴大	非正規雇用が減ると少子化は改善されるのか
大阪大学	赤井伸郎	藤原賢亮	2040年問題を見据えた介護士不足の解消

社会保障③

同志社大学	迫田さやか	内藤希実	学生の扶養控除適用の限度額に対する提言
明治大学	山田知明	五十嵐涼	年金プラスαの資産形成と 財政健全化の両立策
明治大学	畑農鋭矢	杉田剛士	LGBTは賃金格差に直面するのか？ ～ミンサー型賃金関数によるLGBT効果の計測～

少子高齢化

同志社大学	荒渡良	鵜飼和樹	マイクロデータを用いた出生行動の分析と少子化対策
日本大学	鶴田大輔	小林陸人	少子化の要因の1つである未婚化を解消するための政策
日本大学	豊福建太	山田由樹子	高齢化社会における財政配分
日本大学	立服家徳	三宅マティウ	結婚に着目した出生行動分析
明治学院大学	西村万里子	會田航	高齢化が進んだ大規模住宅団地の再生に向けた施策の検討

地方創生①

慶應義塾大学	土居丈朗	江村響	サテライトキャンパスで実現する地方創生
神戸大学	松林洋一	湯浅太賀	地方における人口増加要因の分析と政策の考察
日本大学	立服家徳	藤田光曜	若者の地方流出について

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

地方創生②

慶應義塾大学	松浦寿幸	藤井響人	災害とふるさと納税
慶應義塾大学	土居丈朗	岡部航平	地方の医療格差是正に向けて
大阪大学	赤井伸郎	北條侑佳	空港運営の経営改善に向けて
法政大学	小黒一正	内山愛優	2040年問題を見据えた介護士不足の解消

地方創生③

上智大学	釜賀浩平	川名陸	都市における人口移動要因 ～修正重力モデルを用いた分析～
明治学院大学	西村万里子	野村真優	関係人口の増加に向けた行政支援
明治大学	千田亮吉	佐藤一成	東京圏在住者の地方移住に関する政策案
山口大学	加藤真也	佐藤真大跳	空き家数削減のための研究

都市交通①

慶應義塾大学	松浦寿幸	外山直樹	コミュニティバスの安定的な運行基盤維持を 目指した施策の検討
早稲田大学	須賀晃一	藤田航陽	東京都主要駅周辺の違法駐車を減らすために
大阪大学	大槻恒裕	田代遼真	高齢者の免許返納促進に向けて ～交通手段の代替性に着目した分析～
同志社大学	三好博昭	松田晏青	生活道路における子供の交通事故削減政策 ーICTの活用ー
同志社大学	風間規男	野明高汰	京都市におけるロードプライシング政策の検証

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

都市交通②

同志社大学	迫田さやか	寺原実咲	シェアサイクルと今後の交通事情
日本大学	豊福建太	平林和磨	持続可能なコンパクトシティ政策の実現に向けて
明治大学	畑農鋭矢	二宮大悟	鉄道過密問題に対する提言
一橋大学	佐藤主光	川口遼也	空港民営化

農林水産①

関西学院大学	亀田啓悟	小倉彰圭	ALPS処理水放出による漁業者への損害賠償についての検討
関西学院大学	栗田匡相	藤井香希	空間的・社会的ネットワークが農業生産性に与える影響
山口大学	加藤真也	下川拓斗	持続可能な漁業に向けた養殖業の推進
法政大学	小黑一正	矢澤雄太	スマート農業を活用した日本の農業生産性の向上に向けて

農林水産②

熊本県立大学	本田圭市郎	浅井和夏	六次産業化
中央大学	飯島大邦	木村大地	飼料用米の生産拡大と安定利用に向けて
長崎大学	鈴木崇文	崎山裕匠	農業のイメージギャップをなくすには
明治大学	千田亮吉	村上裕輝	農業の後継者不足解消のための法人化

防災

山口大学	加藤真也	古市圭	災害時における道の駅の活用
上智大学	釜賀浩平	山本脩真	住民の不安解消を目的とした、体感治安に基づく防犯政策の立案
南山大学	寶多康弘	赤川みらい	エスカレーターにおける利用者災害の要因分析

Paper List 分科会別・参加論文一覧

大学	研究会	代表者	タイトル
----	-----	-----	------

労働雇用①

山口大学	加藤真也	木村幸誠	女性の社会進出及び管理職登用の要因分析
青山学院大学	安井健悟	佐藤祐星	女性の社会進出に最も効果的な施策とは
千葉大学	後藤剛志	田嶋航英	女性の就業と待機学童について
同志社大学	藤本哲史	北村涼音	ポストコロナ時代のシングルマザーの働き方改善に向けた政策提言 ーコロナ禍から読み解くシングルマザーの働き方と生活満足感の関係ー

労働雇用②

大阪経済大学	岡島成治	白尾直大	男女格差
南山大学	鶴見哲也	赤星将	多様な働き方の促進
日本大学	宮里尚三	佐藤このみ	男性保育士の課題と現状
日本大学	立服家徳	福地優太郎	男性育児休暇取得率をあげるには

労働雇用③

関西学院大学	亀田啓悟	又賀脩登	大学生における就職活動の 早期化に関する研究
関西学院大学	栗田匡相	野田皓子	優秀なBoda-bodaライダーの要因分析
神戸大学	松林洋一	野吹誠	コミュニティの形成と繋がり強化による ワークエンゲージメントの上昇
東北学院大学	倉田洋	寺戸晴紀	トラックドライバーの作業効率化による 人材不足問題への対応

Examiner List

コメンテーター・論文審査員一覧

中間発表会コメンテーター
政策フォーラムコメンテーター
論文審査員
特別論文審査員



Examiner List コメンテーター 一覧

○2日目政策フォーラム コメンテーター・ゲスト（敬称略）

前静岡市長 田辺信宏

○中間発表コメンテーター（敬称略）

◆医療	肥塚直人	三菱UFJリサーチ & コンサルティング：持続可能社会部長
◆環境・エネルギー	鈴木高広 有賀健高 小川健 岡島成治	近畿大学生物工学部生物工学科教授 埼玉大学大学院人文社会科学部研究科教授 専修大学経済学部教授 大阪経済大学経済学部経済学科准教授
◆観光	東徹 麻生健一 岡本直久	立教大学観光学部観光学科教授 帝京大学経済学部観光経営学科教授 筑波大学システム情報系教授
◆教育	浅沼茂 藤本啓寛 佐伯康孝	放送大学客員教授 早稲田大学教育・総合科学学術院助教 静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科准教授
◆金融・財政	金澤伸幸 塩谷雅弘	創価大学経済学部准教授 金沢大学人間社会研究域経済学経営学系准教授
◆経済産業	荻野義雄 鶴田大輔 松浦寿幸 關智一 立福家徳	元三井住友銀行勤務 日本大学経済学部教授 慶應義塾大学産業研究所教授 立教大学経済学部会計ファイナンス学科教授 日本大学法学部政治経済学科准教授
◆国際	鈴木崇文 石黒靖子 鈴木裕輔 板倉健	長崎大学経済学部教授 兵庫県立大学国際商経学部教授 名城大学外国語学部准教授 名古屋市立大学マネジメントシステム学科経済学専攻教授
◆社会保障	飯島大邦 佐久間美智雄 三好博昭 高橋義明	中央大学経済学部教授 東北文科大学短期大学部子ども学科教授 同志社大学政策学部政策学科教授 明海大学経済学部教授
◆少子高齢化	今野広紀	日本大学経済学部教授
◆地方創生	朝水宗彦 菅澤武尊 東雄大	山口大学経済学部観光政策学科教授 公益財団法人日本住宅総合センター研究部副主任研究員 京都産業大学経済学部助教
◆都市交通	今井龍一 田邊勝巳 荒谷太郎 藤澤美恵子	法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授 慶應義塾大学商学部教授 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所 金沢大学教授
◆農林水産	濱口昌巳 佐藤秀一 八木浩平 青山浩子	福井県立大学海洋生物資源学部先端増養殖科学科教授 福井県立大学海洋生物資源学部教授 神戸大学農学部准教授 新潟食料農業大学食糧産業学科准教授
◆防災	中條覚	三菱総研ポリシー・コンサルティング部門副統括室長
◆労働雇用	岸智子 松崎隆司 八代尚宏 土肥原洋	南山大学経済学部経済学科教授 経済ジャーナリスト 昭和女子大学生活機構研究科福祉社会研究専攻特命教授 公益財団法人マース奨学財団理事

Examiner List コメンテーター 一覧

○政策フォーラムコメンテーター（敬称略）

◆医療	池田俊也 陳鳳明	国際医療福祉大学大学院医学研究科教授 東北大学大学院経済学研究科特任助教
◆環境・エネルギー	加藤真也 根井寿規 有賀健高 小川健 蝶名林俊 中尾文子	山口大学経済学部准教授 政策研究大学院大学教授 埼玉大学大学院人文社会科学研究所教授 専修大学経済学部教授 創価大学経済学部准教授 環境省自然環境局環境計画課 自然環境情報分析官
◆観光	谷脇茂樹 田原洋樹 岡本直久	玉川大学観光学部観光学科准教授 明星大学経営学部特任教授 筑波大学システム情報系教授
◆教育	長嶺宏作 中村賢軌 東陽平 佐々木研一朗 中澤篤史	埼玉大学教育学部准教授 明治大学 商学部 助手 明治大学大学院 商学研究科博士後期課程商学研究科RA 明治大学 政治経済学部 助教 早稲田大学スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 教授
◆金融・財政	金澤伸幸 後藤剛志 塩谷雅弘 津田栄	創価大学 経済学部 准教授 千葉大学 大学院社会科学研究院 講師 金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 准教授 皇學館大学 特別招聘教授
◆経済産業	鶴田大輔 松浦寿幸 末永啓一郎 立福家徳	日本大学経済学部教授 慶応義塾大学産業研究所教授 明治大学 政治経済学部 教授 日本大学法学部准教授
◆国際	鈴木崇文 松井一彦 倉田洋	長崎大学経済学部教授 JECSA ジャパン 監事 東北学院大学経済学部経済学科教授
◆社会保障	飯島大邦 神野真敏 齊藤由里恵 三好博昭 伊藤義典 高橋義明	中央大学経済学部教授 南山大学 経済学部 教授 中京大学 経済学部 准教授 同志社大学政策学部政策学科教授 埼玉県立大学保健医療福祉学部教授 明海大学経済学部教授
◆少子高齢化	斉藤知洋 白石真澄	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部研究員 関西大学政策創造学部教授
◆地方創生	白木智昭 西村弥 平賀一希 井田正道 竹本亨	秋田大学 教育文化学部 地域文化学科 地域社会・心理実践講座地域社会コース教授 明治大学 政治経済学部教授 名古屋市立大学大学院経済学研究科 経済学専攻准教授 明治大学 政治経済学部教授 日本大学 法学部 政治経済学科教授
◆都市交通	田邊勝巳 藤澤美恵子 荒谷太郎 近藤恵介	慶應義塾大学商学部教授 金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系教授 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 主任研究員 神戸大学経済経営研究所准教授
◆農林水産	作山巧 青山浩子 八木浩平	明治大学農学部専任教授 新潟食料農業大学食料産業学科准教授 神戸大学農学部准教授
◆防災	中條寛 黄光偉	三菱総合研究所 ポリシー・コンサルティング部門副統括室長 上智大学地球環境学研究科教授
◆労働雇用	高橋康二 岸智子 土肥原洋 山田修	独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員 南山大学経済学部経済学科教授 公益財団法人マース奨学財団理事 キャリアコンサルタント産業カウンセラー

Examiner List

○論文審査員一覧（敬称略）

◆医療	池田俊也 高山一夫 芦田登代	国際医療福祉大学大学院医学研究科教授 慶應義塾大学経済学部特任助教 国際医療福祉大学大学院医学研究科教授
◆環境・エネルギー	鶴見哲也 岡島成治 亀田啓悟 三浦一浩 西立野修平	南山大学総合政策学部総合政策学科教授 大阪経済大学経済学部経済学科准教授 関西学院大学総合政策学部総合政策学科教授 公益財団法人生活協同総合研究所研究員・日本大学経済学部講師 関西学院大学総合政策学部国際政策学科教授
◆観光	村上嘉代子 浦野慶子 宮錦三樹 佐々木啓	芝浦工業大学工学部電子工学科教授 帝京大学文学部社会学科准教授 中央大学経済学部准教授 和歌山大学観光学部助教
◆教育	石黒万里子 木田竜太郎 青柳健隆 助川晃洋 浅沼茂 西本裕輝 黒田雄大	東京成徳大学子ども学部教授 関西福祉科学大学教育学部教授 関東学院大学経済学部准教授 国士舘大学文学部教育学科教授 放送大学客員教授 琉球大学グローバル教育支援機構教授 大阪公立大学大学院経済学研究科准教授
◆金融・財政	蟹澤啓輔 小原篤次 土居丈朗 豊福建太	明海大学経済学部講師 長崎県立大学国際社会学部准教授 慶應義塾大学経済学部教授 日本大学経済学部教授
◆経済産業	畑農鋭矢 荒渡良 杉田伸樹 關智一	明治大学商学部教授・財務省財務総合政策研究所特別研究官 同志社大学経済学部経済学科博士前期課程准教授 立命館大学経済学部特任教授 立教大学経済学部会計・ファイナンス学科教授
◆国際	鈴木裕輔 板倉健 石黒靖子 小川顕正	名城大学外国語学部准教授 名古屋市立大学マネジメントシステム学科経済学専攻教授 兵庫県立大学国際商経学部教授 新潟大学経済科学部准教授
◆社会保障	山田知明 西村万里子 佐久間美智雄 河野敏鑑 小黒一正 釜賀浩平	明治大学商学部商学科教授 明治学院大学法学部政治学科教授 東北文科大学短期大学部子ども学科教授 専修大学ネットワーク情報学部准教授 法政大学経済学部教授 上智大学経済学部経済学科教授
◆少子高齢化	福井唯嗣 迫田さやか 宮里尚三	京都産業大学経済学部経済学科教授 同志社大学経済学部専任教員 日本大学経済学部教授
◆地方創生	朝水宗彦 村岡敬明 堀内史郎 西村慶友 鈴木崇史 津川修一 林靖人	山口大学経済学部観光政策学科教授 大和大学情報学部准教授 阪南大学国際観光学部国際観光学科教授 日本公共政策研究機構客員研究員 愛知淑徳大学ビジネス学部准教授 龍谷大学経済学部講師 信州大学学術研究院教授
◆都市交通	栗田匡相 今井龍一 浅田義久 寺田一薫	関西学院大学経済学部教授 法政大学デザイン工学部都市環境デザイン学科教授 日本大学経済学部教授 福島学院大学マネジメント学部地域マネジメント学科教授

Examiner List

○論文審査員一覧（敬称略）

◆農林水産	清水みゆき 松添直隆 坂井教郎 橋口卓也	日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科教授 熊本県立大学環境共生学部教授 鹿児島大学農学部農業生産科学科教授 明治大学農学部食料環境政策学科農業政策論研究室教授
◆防災	崔青林 川村匡由 黄光偉	北海道大学社会科学実験研究センター博士研究員 武蔵野大学名誉教授 上智大学地球環境学研究科教授
◆労働雇用	八代尚宏 深堀遼太郎 宇佐美宗勝 倉地真太郎 安田宏樹 藤本哲史	昭和女子大学生活機構研究科福祉社会研究専攻特命教授 中京大学経済学部経済学科准教授 嘉悦大学経営経済学部教授 明治大学政治経済学部専任講師 東京経済大学経済学部准教授 同志社大学政策学部総合政策学研究科教授

○特別論文審査員一覧（敬称略）

千田亮吉	明治大学商学部教授
加藤久和	明治大学政治経済学部教授
赤井伸郎	大阪大学国際公共政策研究科教授
佐藤主光	一橋大学大学院経済学研究科教授
八塩裕之	京都産業大学経済学部教授
本田圭市郎	熊本県立大学総合管理学部総合管理学科准教授

Call for ISFJ

ISFJ参加募集

ISFJ参加ゼミ募集

ISFJ日本政策学生会議は、「学生の政策提言による、望ましい社会の実現」を目指して活動するインゼミ形式の政策シンクタンクです。政策提言を通して、学生という立場から社会を変えていくことを目的としています。

現在、ISFJ2023年における参加研究会を募集しています。参加される場合、毎年8月初旬に行われる中間カンファレンス、9月下旬～10月初旬に行われる中間発表会、12月初旬に行われる政フォーラムに向けて、論文執筆を進めていただきます。

学生という立場を最大限に生かして社会を変えていく理念に共感し、高い問題意識を持った学生が毎年多く参加しています。多くの研究会のご参加をお待ちしています。

ISFJ運営委員募集

ISFJ日本学生会議では、2024年度(第29期)の運営委員を募集しています。ISFJは20年以上の歴史ある団体であり、日本最大規模の学生政策立案コンテストを企画・運営しています。

運営委員は主に事業企画部・研究室担当部・渉外部・広報部の4つの部署に分かれ、仕事を行います。参加者・講師などの大人数を相手にして、組織を運営していくことや、官僚、学者、シンクタンク研究員、民間企業など社会の最前線の方々との関わりを持つことは、自分の将来のビジョンを描く上でとても貴重な経験となります。論文執筆での参加をされない方もお気軽にお声かけください。

ご興味をお持ちの方はお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

Staff

運営委員

代表 又賀 脩登
副代表 二渡 結彩

関西学院大学（西日本代表）
明治大学（東日本代表）

事業企画部	工藤 大和	熊本県立大学（部長）	広報部	廣田 亜衣	南山大学（部長）
	佐藤 一成	明治大学（部長）		田島 英明	明治学院大学（副部長）
	松永 麗	明治大学（副部長）		内藤 麻優子	上智大学
	大場 舜	明治大学			
	齋藤 愛	明治大学			
	中村 太一	明治大学			
	吉田 理乃	明治大学			
研究室担当部	松嶋 綾乃	熊本県立大学	審査員渉外部	宮原 杏奈	日本大学（部長）
				村上 陸人	早稲田大学（副部長）
				寺田 彩夏	慶應義塾大学
				樋口 恭一	慶應義塾大学
				仲田 千夏	慶應義塾大学
				櫻井 龍輝	千葉大学
				石野 みなみ	日本大学
企業渉外部	間島 玲	慶應義塾大学（部長）		内津 悠貴	日本大学
	今道 尊人	大阪大学（部長）		君嶋 花音	日本大学
	塩津 亮太	名古屋市立大学（副部長）		平林 和磨	日本大学
	木尾 明寛	長崎大学		溝口 有紗	日本大学
	松並 沙英	同志社大学		山崎 大翔	日本大学
				金子 颯真	法政大学
				龍谷 悠生	法政大学
	向井 勇翔	千葉大学（部長）		飯野 桂一	明治大学
	渡邊 詩桜	新潟大学（副部長）		永田 大志	明治大学
	小林 悟士	青山学院大学		田中 翔音	明治学院大学
	小野 瑞斗	上智大学		菅谷 文俊	早稲田大学
	高木 有希奈	上智大学		前田 裕輝	大阪大学
	苅谷 昌和	一橋大学		永井 嵩明	大阪経済大学
	朝倉 涼平	明治大学		富田 和偉	金沢大学
	林 裕人	明治大学		畑中 安未	同志社大学
	人見 綾菜	明治学院大学		森 史花	同志社大学
	上野 剛瑠	大阪経済大学		羽鳥 咲里	同志社大学
	遠藤 由宇	同志社大学		後藤 汰一	名古屋市立大学
	木田 歩花	同志社大学		塩見 勇晴	名古屋市立大学
	外山 泰晴	同志社大学		鈴木 みらの	南山大学
	中村 圭佑	同志社大学		岡 琳太郎	兵庫県立大学
	藤木 圭太	山口大学		山下 颯太	山口大学
	増山 弥紘	関西学院大学			
	茶屋 武	関西学院大学			
	西尾 円花	大阪大学			
	客野 壮介	金沢大学			
	永野 悟	明海大学			
	高久 稜生	明海大学			

《 メ モ 》

SNS

ISFJ公式LINEとInstagramが登場！

追加＆フォローお願いします！！



Instagram : @isfj_since1994c

X(Twitter) : @ISFJ_JPN

LINEでは今後も大学生活に役立つ
情報が得られるかも！？

ビジネス実践×自己成長 忘れられない2週間が待っている

今が変わる、将来が変わる、 成長に繋がる体験が待っている。

「内定」にこだわるなら他のインターンへ
「求められる人材」を目指すなら武者修行へ

同志社大学 4年(参加当時) コンサルティング会社勤務 塔本 和哉 さん

人生を通して本当にしたいことは何か?—内定式前に考えるも、答えがみつからない。あったのは、自ら考え行動した結果、新しい価値を生み出せる人材になりたいという思いだけでした。自分でゼロから考えた企画を自ら実行でき、さらにそれがビジネスとして実際に通用するのか、リアルな結果まで出せるところに他のインターンにはない魅力を感じ、参加を決意しました。実践の場だからこそビジネスの本質を掴め、また真の協力関係を一人一人の限界値よりも高いレベルで事を成し遂げられるという、普通の大学生活では得られない気づきを得ることができました。

ビジネスで感じた“前向きな悔しさ”

立命館大学2年(参加当時) 多和碧葉 さん

ビジネスの結果としては不採用でとても悔しいです。ですが、こんな前向きな悔しさは今まで感じたことがありません。これをしっかり振り返れば、次に絶対活かせるから早く振り返りたい!そう思ったほどでした。帰ってから父に「ビジネスに惜しいはない」と言われ、経験者だからこそ言える言葉だと感じました。次はこの経験を活かして、絶対に何らかの形でリベンジしたい。これからはリベンジの方法を考えていきます。ビジネスを経験することを目的として参加しましたが、ビジネスを通してこれからの生き方、人生において大切なことをこんなにも教えてもらえるとは、思ってもいませんでした。



自分で考えた企画を実店舗で実践できる本格的なビジネス研修が、自己成長を越えて、就職や起業にも役立っています!

Before Voice

- ・リアルビジネスを体験したい!
- ・就活に役立てたい!
- ・自分を見つめ直したい!

After Voice

- ・人間的に強くなった!
- ・一生の仲間ができた!
- ・新しい自分を発見できた!
- ・「働く」という事がわかった!
- ・海外・地方で活躍する道が見えた!

なぜ変わるのか?!

2週間を一緒に過ごすビジネスファシリテーターとチームビルディングファシリテーターから、答えではなく「自分で壁を乗り越えるためのアドバイス」を受け、自分で壁を乗り越える体験があるから



実施場所

オンラインでつなぐベトナムの英語学校、和歌山県那智勝浦町、大分県別府市など、魅力ある複数地域/店舗にて!

参加費用

参加プログラムによって異なります。説明会にて詳細をお知らせします。

分割払い、社会人になってからの支払いも可能です。



この年代にこそ意義のある、本物の経験を届けたい。

株式会社 旅武者 代表 遠藤 まさみ

実ビジネスに必要な知識や考え方を凝縮した研修を経て、何よりも大切な「実際にリアルビジネスを体験する」という実践の場へ…。今だからこそ感じとれる事と、主体的に考えて実行する事が大きな成長に繋がり、グローバルに通用する人材になる。そう信じてこの支援活動に全力で取り組んでいます。参加するかどうかは、体験者が語る説明会に来ていただいてからの判断で構いません。みなさんの参加をお待ちしています。

武者修行

Produced by 株式会社 旅武者

● プログラム内容や体験者の声が満載!説明会もチェック!!

mushashugyo.jp

● お問い合わせ・お申し込みはこちらまで

info@tabimusha.com



無料説明会実施中!

Partnership

協賛企業・後援団体

協賛

サイブリッジグループ株式会社
株式会社マイナビ
株式会社 旅武者

後援

公益財団法人 松下政経塾

